

教育目標	重点目標	自己評価		
		評価項目	評価	
心身ともに健やかで調和のとれた人間形成の基礎を養う ○明るく元気な子ども ○友達と仲良くできる子ども ○最後までがんばる子ども	I 子どもを中心に据え、全職員が共通理解のもと協力して教育を進める	<p>① 子どもは、幼稚園生活を楽しんでいる。</p> <p>② 子どもは、身の回りの始末や手洗い・うがいなどの基本的な生活習慣が身に付いてきている。</p> <p>③ 子どもは、戸外遊びや体を動かして遊ぶことを喜び健康な体ができてきている。</p> <p>④ 子どもの姿や活動について情報交換をしたり、相談し合ったりするなど共通理解をし、全教職員の協力のもと教育活動を行っている。</p>	<p>(保護者アンケートより)</p> <p>①に関して、子どもが生き生きと活動し園生活を楽しんでこそ、幼稚園教育を充実させることができるため、全員が「そう思う」だったことには大きな意義があると考えます。</p> <p>②に関して、ここ数年「ややそう思う」と低めの評価をした人が一定数いたが、今年度は全員が「そう思う」としており、身の回りの自立が出来てきていると評価されている。</p>	<p>(教職員自己評価より)</p> <p>②に関して、一人一人に応じた繰り返しの援助をしている。個人差はあるが、それぞれに自分でしようという意欲があるため、徐々にできるようになってきている。</p> <p>③に関して、運動習慣や体力向上のため、励みになるよう個別のカードを作成してマラソンやなわとびに挑戦できるようにしたり、全員で鉄棒や長縄跳びをする時間を設けたりした。</p> <p>④に関して、記録を毎日とり幼児理解を深めた上で共通理解や話し合いをし、全職員で子どもを育てていこうと努めてきた。</p>
	II 人とのつながりの中で、子どもが互いのよさに気づき、大切にしようとする心を育む。	<p>④ 子どもは、先生や友達の話をよく聞こうとしている</p> <p>⑤ 子どもは、自分の思っていることを、言葉や態度で先生や友達に伝えようとしている。</p> <p>⑥ 教職員は、子どものことを理解し、一人一人を大切に保育をしている。</p> <p>⑦ 研究テーマである「互いを大切にすることを育むための保育のあり方」の観点から子どもの育ちを丁寧にとらえ環境を構成したり見直しをしたりしている。</p>	<p>④⑤に関して、例年「ややそう思う」「あまりそう思わない」と低めの評価をする人がいるが、今年度は全員が「そう思う」と評価している。教職員の評価とは違いがあり、集団生活の中での様子や園での関わりなどをより丁寧に伝えていく必要があると感じる。</p> <p>⑥に関して、小規模園のよさを生かし、子ども一人一人に応じて関わったり丁寧に指導をしたりと、大切に取り組んできたことが評価されたと考える。</p>	<p>④⑤に関して、保護者とは違い、全体の中では評価が低めの項目である。互いの思いを聞いたり伝えたりする力、コミュニケーション力は、生涯にわたって大切な生きる力の基礎であるため、しっかりと育てていきたい。</p> <p>⑥⑦に関して、事例研究を行い、市幼稚園教育研究協議会の研究資料をまとめた。園生活の中での子どもの遊びの姿を記録し、具体的に省察することで学びや育ちを捉え直し、保育を客観的に振り返ることができた。</p>
	III 小・中学校や地域との連携を深め多様な体験を通して人とのかかわる力を育んでいく。	<p>⑧ 幼稚園は、地域の人材や自然環境などを活用し、子どもに豊かな体験活動ができるように努めている。</p> <p>⑨ 幼稚園は、子どもの成長・発達にとって意味のある行事や教育活動の工夫・精選をしている。</p> <p>⑩ 幼稚園は、小・中学校や地域の方々との交流を通して、連携した教育活動を行っている。</p> <p>⑪ 幼・小の連携で子どもの育ちを支えていくために、その場や機会を生かしている。</p>	<p>全ての項目で、全員が「そう思う」としている。</p> <p>入田地域の自然や人との関わりを保育に生かし、入田幼稚園ならではの、様々な経験ができるようにしていこうとする姿勢が伝わったのではないかと考える。</p> <p>特に⑨⑩に関して、小学校との交流の機会が多いことで、園児数の少なさをカバーし、子ども同士のコミュニケーションが互いの成長につながるものであると声があった。</p>	<p>⑩⑪に関して、小中学校との交流や行事、地域での園外保育など、多くの人と関わり様々な経験をすることができた。回数を重ねることにつながりが深まり、校種を越え教職員同士も情報交換を密に行うことが出来ている。</p> <p>様々な人と関わり大切にされていると感じることで、他の人のことも大切にできるようになっていくと考える。このような体験を繰り返しながら、感謝の気持ちを育み、本園ならではの活動を絶やすことなく続けていきたい。</p>
	IV 子どもはもとより、保護者や地域からも信頼される教師としての指導力の向上を目指し自己研修を進める	<p>⑦ 教職員は、保護者からの連絡や相談に適切に応じている。</p> <p>⑩ 幼稚園は、保護者にとって、園生活の様子を知ったり保護者同士の交流を深めたりする場としても有意義なものになるよう、保育参観や園行事を工夫している</p> <p>⑪ 園内外の研修に積極的に参加するなど資質の向上に努め、保育や環境構成に生かしたり見直しをしたりしている。</p>	<p>⑦⑩に関して、昨年度は全員が「そう思う」としていたが、今年度は「ややそう思う」と評価した人がいた。</p> <p>園児数減少に伴ったPTA活動における保護者の負担増加について考え、例年大規模に行ってきた夏まつりを取りやめ、コミセン夏まつりへの協力をする形に変更した。負担が減ったと考えていたが、評価が下がり、話し合いが十分ではなかったのかもしれないと思われる。</p>	<p>⑩に関して、今年度は園児数減少の上に全家庭が共働きのため、相談しながらPTA活動の内容や実施形態などの検討・見直しをした。今後の見通しも含め課題は多くあり、保護者と共に柔軟に考えていく必要がある。</p> <p>⑪に関して、今年度は園外での研修の機会が少し増え、他園の公開保育にも参加することができた。オンラインで実施される研修会にも積極的に参加し、学んだことを他の職員に伝え、学びを共有できるようにした。</p>
	V 幼稚園教育への理解を深めることができるよう、保護者や地域に向けて積極的に情報を発信する。	<p>⑫ 幼稚園は、毎日の登降園時や参観日、ホームページや地域の広報誌などを通して、園生活の様子や子どもの成長、保育内容などを伝えている。</p> <p>⑬ ホームページや地域広報誌を活用し、保護者に園生活や子どもの取り組みを知らせたり地域内外に幼稚園教育についての情報を積極的に発信したりすることに努めている。</p>	<p>全員が「そう思う」としている。</p> <p>できるだけ、行事ごとに園のホームページを更新するようにしてきた。園の様子が掲載されている新聞の広報誌配布や、ケーブルテレビの放送が多いことも喜んでくれているようである。幼児の成長や発達の姿を通して、幼稚園教育のよさを知らせていくことができるようにしたい。</p>	<p>活動の様子や子どもの育ちを分かりやすく発信するようになってきた。活動のねらいや学び、教員の願いなどを始め、それらがどのような姿につながっていくかなども、もっと分かりやすく伝わるようにしていきたい。</p> <p>未就園児への園開放を実施したが、参加人数が非常に少ない。実際に園生活の様子を見てもらったり、保護者と会話を交わしたりすることでつながりができるので、広く周知していきたい。</p>
	VI 危機管理の対応を明確にし、安全・健康教育を進める。	<p>⑭ 幼稚園は、日々の安全管理や防災教育、衛生管理や感染症対策などを行っている。</p> <p>⑮ 危機意識をもって非常時の対応などを共通理解するとともに、避難訓練などの防災教育や健康で安全な生活を送るための指導に努めている。</p>	<p>全員が「そう思う」としている。</p> <p>世間では様々な感染症が流行したが、本園は欠席する子どもも少なく、比較的元気に1年を過ごすことができた。これらの項目に関する社会的関心は高まっており、今後も一層の取り組みが必要であると考えます。</p>	<p>衛生面に関して、様々な感染症対策としての基本である手洗いうがいを始め、換気や消毒などについても指導や励行を行い、園内では流行することなく過ごすことができた。</p> <p>防災面では、様々な災害や場面を想定してマニュアルを作成しているが、話し合いや見直しを繰り返して行っていきたい。</p>